



横浜立教会 会報

2023年(秋)

発行人：上原 敏博
編集人：楠本 健司
木村 欣照
横浜立教会 発行



ご挨拶 卒業しても立教人 会長 上原敏博

2023年早くも秋冷の候、菊香る、読書にスポーツに、また紅葉狩りにと絶好の季節となりました。大変遅くなりましたが、横浜立教会の会長に就任しましたので、ご挨拶をさせていただきます。

長年、大橋会長に大変ご苦勞していただき、やっと横浜での立教会の体制が整ってきたところですが、大橋会長の退任のご意志がかたく、その下で幹事長を務めさせていただいた私が、受けざるを得なくなり就任させていただくことになりました。

私は、昭和42年経済学部経済学科卒。在学中はスペインギタークラブ、英米文学研究会に参加し、山小屋の部室を中心とした学生生活を楽しんでおりました。現在は、私自身が創業した事業が48期を無事終わり若手に会社を委譲し、会長職として勤めております。また、泉区において28町内自治会、15,000世帯を包括した中田連合自治会の会長として地域に貢献しております。大変多忙の中ですが立教大好き人間が最後の奉公として受けさせて頂きました。来年2024年は大学創立150周年となり大変な年を迎えることとなります。コロナ禍で世界は大きく変わり、人間の生き方も変わってまいりました。しかし、人々

はお互い助け合い、共に人生を楽しむことが大切なことと思います。紫紺の旗のもとに自由の学府を讃美し年に一度は立教人として校歌を歌いたいと思っております。先日、西原廉太総長にお会いした折、色紙に「Do Your Best And It Must Be First Class」最善を尽くせ、そして一流であれ。ポール・ラッシュ博士の言葉を頂きました。世界に誇るみなと横浜の立教会として、洗練された一流のクラブをつくるため、最善を尽くし、多くの校友のお力をいただき、創立150周年を迎えたいと思っております。

4年ぶりに交流の集いを開催



6月24日(土)、交流の集いを横浜駅西口のホテルプラムで開催、50名が参加し盛会でした。記念講演は林英明氏の「箱根駅伝の出場を経て～シード権獲得を目指して」。箱根駅伝2024事業に携わり体育会陸上部の長距離コーチを務める林氏は、5年ぶりの箱根駅伝出場に至るまでの取り組みをパワーポイントで解りやすく説明され、大変好評でした。

総会では、9年間会長としてご尽力いただいた大橋英五会長が退任し、上原敏博新会長

が就任しました。交流パーティーでは、来賓あいさつ、食前の祈りの後懇親会となり、新会員や同好会活動の紹介が行われました。駅伝出場もあつてか新会員がこのところ増えています。最後は恒例の校歌・応援歌で締めくくりました。





○クラシックバレエを始めたきっかけは？

小学生の頃はバレエ漫画「アラベスク」やTVドラマ「赤い靴」を観て、バレエの世界に憧れていました。初めて観た舞台は、レニングラード国立バレエの来日公演でした。演目は「白鳥の湖」でしたが、美しい踊り・音楽・衣装・舞台装置に魅了されました。当時はピアノを習ってたので、バレエを習う余力もありませんでしたが、40歳を機に何か新しいお稽古事を始めてみたいと思い、幼少から憧れていたバレエに挑戦することにしました。幸い、素人の大人向けクラスのあるバレエスタジオが近所にあり、ママ友を誘いレッスンに通い始めました。当時小学生だった息子も、クラスは別ですが同じスタジオに通わせました。

○クラシックバレエのお稽古で楽しいところは？大変なところは？

幼少の頃からピアノを習っているので、音楽のイメージを描くのはわりと得意ですが、それを動作で表現するのは難しいです。音楽に合わせて踊るのは人間の本能が呼び覚まされるようで、素直に喜びを感じます。熊川哲也さんも「先ず音楽があり、そこから



踊りがおいてくる」と仰っています。バレエのレッスンで使う曲はピアノ演奏が多いので、自然に身体が動き出す感じです。ただ、大人から始めた私は、当然ながらプロのバレエダンサーのように踊れません。生来身体が硬く、地道なストレッチ運動を続けても、開脚して胸が床に着くまではほど遠いです。幼少からバレエを習っている方は、両脚を前後に軽々とスプリットできますが、私はそれを横目に内心悲鳴をあげています。(苦笑)

○バレエのレッスンはどのような流れなのですか？

先ずはバレエシューズでバーにつかまり、基本動作のお稽古から入ります。スローテンポからアップテンポまでピアノ演奏に合わせて徐々に身体をほぐしていきます。その後、バーを離れてセンター(稽古場の中央)での踊りの稽古に入ります。先生のお手本を真似て踊るのですが、頭部、胴体、両手、両脚すべての動きを連動させる必要があります、これがなかなか難しいです。最初に右側から始まる踊りをやり、その後左右反転するのですが、頭の体操にもなります。とは言え思う通りに身体は動かず、「習うより慣れろ」の反復練習によってバレエの基本動作を身体に叩き込む感じです。



○クラシックバレエというと、トゥシューズでつま先立ちになるというイメージがありますが

最初は、バレエシューズで練習しますが、先生からお許しが出れば晴れてトゥシューズ(ポアント)が履けます。ポアントの中には種々のクッション材を入れて、つま先立ちになった際に痛みが出ないように工夫しています。つま先立ちで転んだらどうしようという恐怖心が先行し、最初はバーにしがみつくと感じました。スケートの初心者から手すりから離れられないのと同様です。バーを離れセンターでポアントでつま先立ちができたときは、初めて自転車に乗れたときのような感動がこみあげてきました。

○クラシックバレエを習っていてよかったことは何ですか？

先ず体幹が鍛えられ、姿勢も自ずとよくなり、両手両肩を動かすので五十肩防止にもなっているようです。レッスンでは基本レオタードを着るので、自分の体形の変化にいやおうなく向き合うことになります。プロのバレエダンサーはほんと簡単に踊っているように見えますが、実際にやってみると難しいものです。バレエでは手足のポジションや動きなどすべてに名前が付いていて、そのコンビネーション



が実際の踊りとなります。有名なパ・ド・ドゥ(男女ペアの踊り)などは決まった振り付けが多く、それを分析するのも楽しいです。フィギュアスケーターや体操選手もバレエを習う方が多く、バレエはすべての踊りの基本となっているようです。

○実際の舞台上で踊った経験はありますか？

これまで6回発表会に出ました。もちろんパド・ドゥではなく、6名から12名の群舞(コールド)です。一緒に踊るメンバーと息が合うまで繰り返しお稽古します。コールドではチームワークが何より大切で、動きのタイミングを合わせ美しいフォーメーションを描けるよう練習します。ピアノソロは舞台上で一人孤独ですが、コールドバレエはメンバーと一緒にという安心感&責任感があります。発表会前は練習頻度も増え、筋肉疲労による肉離れを起こしたこともあり、全治3週間でしたが何とか本番に間に合いました。きらびやかな衣装を身にまといスポットライトを浴びて踊るのは楽しいですが、本番は無我夢中で、あっという間に終わってしまいます。



○踊るときに心掛けていることは何ですか？

素人なりに「楽しく踊る」ということです。常に笑顔で踊るよう心掛けています。舞台では数分の踊りでも肩で息をするくらい苦しいのですが、辛さや大変さが観客に伝わらないよう、終始満面の笑みで踊るようにしています。先生からも笑顔だけは毎回褒められます。ピアノをやっているのでも、音楽のフレーズを暗譜し、音と振りを結びつけるのは得意です。

○今後始めたい方へのアドバイスは？

大人の初心者向けクラスのあるバレエスタジオも多く、大抵のスタジオで体験レッスンを受け付けています。未経験で身体が硬くても大丈夫です。(私がそうでした)

ただし、男性の初心者向けのクラスは少ないようです。私は3つのバレエスタジオに通いましたが、今は指導が上手く信頼できる先生のクラスに通っています。その先生は米国ボストンのバレエ団で踊っていた方で、レッスンは厳しいですが、「大人でも練習すれば上手になる」という指導理念を持たれ大変尊敬しています。その先生のお陰で、ポアントで発表会の舞台上に立つことが出来ました。

○最後に一言お願いします

「ご趣味は？」ときかれて「バレエとピアノ」と答えると、体格ゆえか「え？ママさんバレエですか？」とよく言われます。(笑)「学生時代の応援団在籍ではチアリーダー？」ともよく言われますが、応援団吹奏楽部でクラリネットを吹いていました。吹奏楽部のマーチングバンドでは、カラーガードという等身大の大きな旗を振っていました。マーチングの視覚効果を出す役割をカラーガードは担っていますが、踊りに通じるところもあったかもしれませんが、「芸の道は果てしない」と申しますが、バレエもピアノも、歳を重ねてもずっと続けて行きたいです。



新会員の紹介

(9月までの入会者です)

上田 雄志 1989年(平成元年) 経済学部経済学科卒
永瀬 昌吾 2023年(令和5年) 法学部法学科卒

佐々木 良晴 1976年(昭和51年) 法学部法学科卒



予備校の模擬試験で志望校を立教にすると、なぜか合格率が上がり、入学できたことは運命的な出会いを感じました。野村ゼミを1年生から4年生まで受講し中国の近代・現代政治思想史を勉強しました。野村先生は酒豪で(実家が伏見の造り酒屋)飲み会ではこちらも鍛えられました。
軟式野球同好会(現軟式野球部)に入会して4年間6大学リーグでプレーしました。各チーム2試合総当たりで、勝敗により順位を決めておりました。当時は東大・立教を除いた各大学に甲子園に出場した選手もあり、かなりレベルが高く東大と最下位を争っていました。本年1月末をもって定年再雇用契約が満了し東邦ホールディングス(株)を退社いたしました。小学校の同期会の幹事や高校の同窓会のお

手伝いをしてありますが、今後は新たな出会いを求め活動したいと思っております。
趣味は旅行と野球観戦です。この1年は沖縄、大阪、京都、浜松、兵庫、広島、山口に行きました。野球は6大学を始め都市対抗(取引先が常連出場先で招待されます。)時々プロ野球を観戦します。会員の皆さんと歓談し、世代が違ってもかかわらず話が盛り上がるころはさすが立教と感じました。どうぞよろしくお願いたします。



杉本 法子 1992年(平成4年) 法学部法学科卒



この度はご縁があつて校友会に参加させていただくことになりました。学生時代は長期休暇を利用してヨーロッパ旅行をするためにバイト三昧、その合間に学業、サークル活動にいそんでおりました。サークルはテニスサークルで、無名なサークルでしたが立教オープンにも参加しました。その当時の立教オープンが携帯電話がなかったため、試合日程を確認するのが大変だったことを覚えています。連絡係の留守番電話にメッセージを入れてもらい、それを外から聞いて連絡網で回す、といったようなことをしていたと思います。便利なものはなくてもあれこれ工夫していたってことですね。卒業後は電気メーカーに就職し、そのまま勤務し続けております。仕事は忙しいですが、休暇は取りやすい職場のため就職後も旅行や食べ歩きを楽しんでいます。校友会参加のきっかけも、趣味の食べ歩きがご縁でした。コロナ禍は旅行、食べ歩きも思うように出来ませんでした。今はぼちぼち活動を再開しています。今年の5月は勤続30年のご褒美休暇でパリ旅行に行きました。パリの街並みの美しさは変わりませんでしたが、学生時代と違って観光のやり方はずいぶん変わったと思いました。以前は窓口で並んで購入していた美術館のチケットも、今は事前予約が当たり前、ガイドブックや紙の地図もGoogle先生にお任せといった感じで、待ち時間短縮、迷うことなくパリを観光することが出来ました。これからも仕事をし、ご褒美の食べ歩き、旅行の他に校友会の活動もご協力させていただければと思っております。皆様、どうぞよろしくお願いたします。

クラブ活動の報告

ぶらり博物館・美術館 & 聴く会

関東大震災から9月1日で100年となりましたが、8月20日(日)、県立歴史博物館の特別展「関東大震災—原点は100年前」を学芸員による講演を聴いて見学しました。参加者は8人。写真や記録で実態に迫った展示だけに被害の状況を生々しく感じることができ、また巨大地震の発生が言われる今日、今後の地震に備えることがいかに大事かを痛感しました。その後、放送ライブラリーで「テレビとCMで見る1980年代」を見た後、中華街のウインドジャマーでジャズのライブ演奏を聴きながら、話が弾みました。



BBQ大会盛大に開催



青年部・女子会主催によるBBQ大会が、8月26日(土)みなとみらいのBBQ施設で開催され、40名が参加しました。昨年の県校友の集いで、若手グループ神奈川と女子会神奈川が発足したことから、川崎、よこはま青葉、湘南、逗子葉山、大和、小田原の地域立教会の他、校友会事務局からも参加、大いに盛り上がりました。すばらしい夜景と海を見ながら、ビールとバーベキューで交流を深めることができました。今後の取り組みが期待されます。猛暑が続いた夏でしたが、さわやかな海風を感じながらの楽しい一夜となりました。



立教スポーツを応援する会 六大学野球応援



9月10日、東京六大学野球、秋のリーグ戦、対慶應戦、総勢9名で応援してきました。学生席で応援団の指導のもと、立ったり座ったり、点が入れば肩組んで、第一応援歌を大声で歌い、青春時代に戻りました。試合の方は、7対11で負けましたが、球場近くの中華で残念会。再度盛り上がりました。





9月30日(土)横浜野毛にぎわい座で、野毛地区街づくり会主催、アジアいちご基金が協賛する、チャリティー寄席を楽しんできました。横浜在住の真打ち三遊亭遊吉さんが長年協力して、タイの親を亡くしたり、肉親と離れ離れになった子供達を寮生活させ、通学、就職などの支援をしている現地団体に収益を毎年送っています。横浜立教会の参加者9名も募金に協力しました。寄席の後は、近所の居酒屋一ノ蔵で懇親を深めました。一ノ蔵合唱団のメンバーと同席でコーラスでも盛り上がりました。



立教スポーツを応援する会

箱根駅伝予選会を応援



秋晴れの立川昭和記念公園に10月14日、湘南立教会のメンバー他と箱根駅伝予選会応援に行ってきました。50余校がエントリー、立教は不祥事で監督不在の中、見事6位で来年正月の箱根路のキップを勝ち取りました。厳しい状況でも、それ以上に、箱根路を走りたいという気持ちで選手たちは頑張ったのです。選手たち、原田総監督、林コーチの涙が物語ります。来年の正月は、今年同様JR保土ヶ谷駅、京急戸部駅近辺で62年ぶりのシード権獲得めざし、応援しましょう。



ホームカミングデー

オープンマーケット出店 焼き鳥完売!



10月15日(日)の第61回ホームカミングデーはあいにくの大雨の中、池袋キャンパスで開催されました。今年は焼き鳥と横浜地ビールを販売しましたが、午前中は雨のため来場者は今一つでした。雨が止んだ午後

からは客足も増え、焼き鳥は用意した600本(300皿)を完売しました。残念ながら寒さもあり、地ビールは売れ残りました。当会のブースには西原総長、大橋前会長、総会で講演をされた駅伝の林コーチを始め多くの方々にお越しいただき、交流を深めることができました。また、これを機会に会員になりたいとの声も寄せられました。改めて出店にご協力をお願いした多くの方々に感謝を申し上げます。



広告募集のお知らせ

来年の春号から増ページを予定しており、会員の会社、事業所等の広告を掲載するとともにHPにも掲載します。料金はA4の4分の1のスペースで1万円(1年間)です。皆様のご協力をお願いします。

編集後記

総会で大橋会長が退任され、後任として上原会長が就任しました。大橋会長には9年間にわたって横浜立教会の顔としてご尽力をいただきました。上原会長も多忙の身ですが、今後に期待します。会報の私の趣味欄がきっかけで2名の会員がスケッチのクラブに加入したとのことで、輪の広がりを感しました。会の活動をメーリングリストでケータイやパソコンへ配信しています。利用していない方はぜひ登録をしてください。